

計画策定の趣旨

- ・長期的な展望に立った事業運営の指針「滋賀県企業庁水道ビジョン」上半期5年間の実施計画である現行経営計画(平成23年度～27年度)の期間終了にあたり、下半期5年間の次期経営計画の策定を行う
- 計画期間:平成28年度～平成32年度
- ・「経営戦略」と位置づける

第1章

基本理念

信頼の水で、地域の未来に貢献します

《水道ビジョンより》

水道事業の現状・課題、今後の展望

第2章

○前期経営計画(平成23年度～平成27年度)の実績と評価 《実施計画》

- 【安心】水道GLPを県内事業体として初めて取得
水源保全活動、施設見学、出前講座、しごと体験等の実施
- 【安定】送水管(西部幹線、八幡安土パイパス)の整備
事業継続計画(震災編)、アセットマネジメント計画の策定
- 【持続】組織一元化・業務の集中化による5名の人員削減
企業債の繰上償還による支払利息の軽減
- 【環境】工水送水ポンプのインペラカット、用水インライン化工事
- 【国際】外国人研修生の受け入れ
- 《財政収支計画》
- 【水道用水供給事業】
 - ・料金収入は安定
 - ・整備計画の見直しにより建設改良費の実績額は計画値を下回り、その結果、企業債残高も計画を下回る
- 【工業用水道事業】
 - ・使用水量は減少傾向、料金収入は安定
 - ・整備計画の見直しにより建設改良費の実績額は計画値を下回る
 - ・彦根工業用水道事業では企業債全額繰上償還を実施、南部工業用水道事業では企業債残高は確実に減少

○水道事業をとりまく現状と課題、今後の展望

- ①人口減少社会と水需要の減少
 - ・水需要の減少傾向と人口減少
 - ⇒施設規模の適正化・長寿命化・工水の新規需要開拓
- ②投資需要の増大
 - ・施設設備の老朽化と耐震対策
 - ⇒アセットマネジメント計画による効率的・効果的な事業実施
- ③危機管理
 - ・甚大な被害が想定される浄水場の耐震対策が喫緊の課題
 - ⇒ソフト面・ハード面両面による対応力、体制の強化
- ④水質に関わる環境の変化
 - ・琵琶湖、野洲川の水質の変化、異常気象
 - ⇒水質監視・水質管理体制の強化とハード面での対策
- ⑤技術の継承と人材確保
 - ・水道職員の大量退職時代の到来
 - ⇒次世代の職員に技術を継承する取組と若手職員の採用
- ⑥経営の効率化
 - ・安全な水の提供+強靱な施設の確保+持続可能な経営+適正な料金水準
 - ⇒長寿命化・ダウンサイジング等による建設コストの削減
 - 受水市町も含めた広域化の検討、工業用水道事業の料金制度改定

事業実施計画

第3章

○水道用水供給事業

《行動計画》

水道ビジョンに位置づけた「目標達成に向けての施策」を着実に実施するため、施策ごとに年次計画を定める

《重点取組方針》

- 【安心】
 - ・安全で良質な水道水を供給するため、浄水管理、水質管理、広報活動の充実と強化(消毒副生成物対策、水道GLPに基づく水質管理、鉛フリー材料化等)
- 【安定】
 - ・水道施設を常に安定的に稼働するため、浄水場の耐震対策や管路の更新事業の実施
- 【持続】
 - ・経営基盤強化のための業務の効率化、経営の透明性を確保するためのしくみについて検討
 - ・健全かつ持続可能な水道の実現のため、受水市町と連携し、広域化について検討

○工業用水道事業

《行動計画》

水道ビジョンに位置づけた「目標達成に向けての施策」を着実に実施するため、施策ごとに年次計画を定める

《重点取組方針》

- 【安定】
 - ・水道施設を安定的に稼働するため、耐震対策への取組や、管路の更新事業の実施
- 【持続】
 - ・経営基盤強化のための業務の効率化、経営の透明性を確保するためのしくみについて検討
 - ・新規需要拡大策の実施、新しいしくみや料金体系等について検討

○主な目標値(平成32年度)

基本目標	目標となる指標	目標値	(26年度実績)
安心	用水	かび臭から見たおいしい水達成率	70% 45%
		水質苦情件数	0件 0件
	工水	水質苦情件数	0件 0件
安定	用水	浄水施設耐震化率	15% 0%
		管路の耐震化率	40% 31%
	工水	ポンプ所耐震化率	45% 34%
持続	用水	当該年度の経常収支比率	108%以上 126%
		給水収益に占める企業債残高の割合	320%以下 262%
	工水	当該年度の経常収支比率	100%以上 127%
環境	共通	給水収益に占める企業債残高の割合	300%以下 62%
		過去5年間のエネルギー使用原単位平均	マイナス マイナス
		変化率対前年度比	1% 1.2%
		建設副産物のリサイクル	100% 100%

《経営計画の5つの基本目標》

- 【安心】 安全で良質な水を供給します
- 【安定】 信頼されるライフラインを確保します
- 【持続】 健全な経営を次世代につなぎます
- 【環境】 環境にやさしい水道をめざします
- 【国際】 国際貢献に対応します

投資・財政計画

第4章

【基本的な考え方】

- ◆長期的視点に立ち、効率的かつ効果的に更新事業を実施することにより、安定給水を図る
- ◆経費削減と財源確保により、財政基盤を強化し、水道事業経営を安定的に継続する

【投資計画】

計画期間の施設整備計画(事務費を除く建設改良費)	平成28	平成29	平成30	平成31	平成32	計
用水	1,591	4,473	4,188	4,229	3,564	18,045
産根工水	88	28	70	206	52	444
南部工水	192	151	801	1,672	1,212	4,028

《更新基準》

- I 管路:80年以内での更新優先順位を設定
- II 電気・機械設備:更新基準年数を設定

《主な整備事業》

- 【水道用水供給事業】
 - 施設設備更新:馬淵・水口機械脱水機設備
 - 浄水場耐震対策:吉川(沈澱池/ろ過池/浄水池/送水ポンプ)
 - 施設改良:馬淵追加塩素注入設備、水口脱臭処理施設
 - 管路更新:日野ライン、竜王ライン、蒲生日野ライン
- 【彦根工業用水道事業】
 - 設備更新:受変電設備、流量計、高宮P無停電電源装置
 - 管路更新:低区Jライン、低区Kライン
- 【南部工業用水道事業】
 - 設備更新:急速・緩速攪拌機、菩提寺P自家発電設備
 - 浄水場耐震対策:吉川(送水ポンプ)
 - 管路更新:湖南団地ライン、水口ABライン

【財政計画】

- アセットマネジメント計画に基づき5年間の収支計画を策定
- 《財政にかかる目標指標》
 - I 年間の給水収益程度の内部留保資金の確保
 - II 企業債残高の上限の設定
 水道用水供給事業 150億円
工業用水道事業 借入を抑制

計画の進行管理

第5章

- ・PDCAサイクルによる進行管理
- ・計画目標の進捗状況、評価結果をホームページ等により公表

《水道ビジョンより》

